

平成 22 年度第 1 回事前調査検討専門部会・SSP 事後打ち合わせ議事録

日時:2010 年 9 月 14 日(火)14:00~17:00

場所:海洋研究開発機構 東京事務所 セミナー室 A

出席者(敬称略)

専門部会長:小平秀一(海洋研究開発機構)

専門部会委員:荒井晃作(産業技術総合研究所)、吾妻高志(海洋研究開発機構)、
中西正男(千葉大学)、三浦誠一(海洋研究開発機構)、望月公廣(東京大学)、
島田忠明(石油天然ガス・金属鉱物資源機構)

SSP 委員:井内美郎(早稲田大学)、川村喜一郎(深田地質研究所)、中村恭之(東京大学)
柏原功治(石油資源開発株式会社)、朴 進午(東京大学・SSP 議長)

IODP 部会執行部:芦 寿一郎(東京大学)

事務局:阿波根直一(CDEX)

欠席者(敬称略)

専門部会委員:加藤幸弘(海上保安庁)

議事次第

1. #13SSP 会議@Brest 報告
2. 各機関の調査予定
3. 今後、事前調査が必要とされる日本からの掘削提案
4. IODP/J-DESC 動向報告+委員ローテーション

配布資料

- 資料 1 前回会議(100222)議事録(案)
- 資料 2 #13SSP 会議@Brest 報告書
- 資料 3 日本から提案されているプロポーザルリスト
- 資料 4 2013 年以降の体制、移行
- 資料 5 委員ローテーション

0. 小平専門部会長より開会の挨拶がなされ、出席者の自己紹介、議事次第および配布資料の確認がなされた。

1. #13SSP 会議@Brest 報告

資料2にもとづき、7/26-28に IFREMAR(仏・ブレスト)で開催された標記の会議について、川村 SSP 委員および朴 SSP 議長を中心に報告がなされた。

▷掘削プロポーザルの評価体制については、資料2の表のとおり実施した。

▷新プログラムへの移行を踏まえた SAS の改組に関する議論を実施。

▷朴 SSP 議長が今回で退任し、次期議長として G. Lericolais(仏)、次期副議長として D. Mallinson(米)が推薦された。

▷次回の SSP 会議は日本で開催予定(2011年2月2-4日)。ローカルホストは川村 SSP 委員で、深田地質研究所での開催を予定。開催支援(ロジ)は事務局(CDEX)が実施する。

2. 各機関における調査予定

各委員より、口頭またはパワーポイントにて実施中あるいは近いうちに実施される予定の海域調査・使用船舶・使用機器等に関する概要説明と意見交換がなされた(詳細は略す)。

3. 今後、事前調査が必要とされる日本からの掘削提案

日本から提案されたプロポーザルの事前調査状況について、本専門部会でフォローする必要がある。

770-Full (KAP) については、海域調査結果データが SSDB に登録されていなかった事が SSP 委員から指摘され、その対応について議論がなされた。その他、資料3にもとづいて国内から提案されているプロポーザルの事前調査状況について情報交換がなされた。718-Pre (Petit Spot)については、海域調査状況が不明であるので、本専門部会からプロポーネントに対して状況を確認し、必要があれば J-DESC の HP より IODP 地下構造探査データ取得支援に申請してもらうことも検討する。

合意事項: 事前調査検討専門部会は、770-Full のプロポーネントに対して SSDB へのデータ登録を可及的速やかに完了すること、及び次回 SSEP で不利にならないようにプロポーネントが SSEP 議長に対してデータ登録完了した旨を報告することを要請する。

対応者: 事前調査検討専門部会長

対応者: 事前調査検討専門部会長

4. IODP/J-DESC 動向報告+委員ローテーション

合意事項: 事前調査検討専門部会は、718-Pre のプロポーネントに対して調査状況を確認し、必要があれば J-DESC の IODP 地下構造探査データ取得支援への申請を要請する。

資料4にもとづき、事務局より IODP の動向、特に 2013 年以降の新しいプログラムに向けた活動状況、SAS 改組に関する現状の議論、2013 年までの各プラットフォーム稼働予定について説明が示された。SAS の改組については、IODP-MI の評価委員会レポート(<http://www.iodp.org/triennium-review/>)に概念説明が示されており、これをベースに議論が進められているので、必要に応じて参照のこと。事務局では来年1月の SASEC 会議で SAS 改組の最終案が示されると想定している。これに対応して J-DESC の専門部会体制も改組するかどうか検討する必要があり、執行部にて議論される予定である。

▷新しい SAS における SSP の位置付けはまだ不明瞭であるが、継続される方向にある。また、新 SAS 体制ではプロポーザル審査の簡素化・迅速化が図られる。既存 SAS 内に残っているプロポーザルについては、11 月 SSEP で整理され、SPC を通じて次期プログラムへ継続される案件が決定される予定(朴 SSP 議長)

▷SAS 改組に合わせて J-DESC の専門部会体制も改組する必要があるかどうか？改組の必要があるならば、IODP 部会執行部から早めに周知してほしい(小平専門部会長)

資料5にもとづき、事務局より委員ローテーションについて説明が行われた。当面の課題は、朴 SSP 議長が今回で退任したので、後任の SSP 委員(通常委員)を探すことである。これを受けて、委員候補者について議論がなされた。一週間程度は専門部会委員からの推薦を受け、特にない場合は本日の議論に沿って人選を進めていくこととした。また、専門部会委員の任期について議論がなされた。

合意事項: 事前調査検討専門部会は、後任の SSP 委員候補者とコンタクトをとり、本人の了解が得られれば後任委員として推薦を実施する。

対応者: 事前調査検討専門部会長

以上。